令和7年度全国学力・学習状況調査を受けて　　泉佐野市立長坂小学校

これまでのとりくみ（P・D）

（国語）

本校では、自分の思いや考えを「書く」ことに力を入れてとりくんでいる。これまで、書く意欲や表現力を向上させるような授業づくりを行ってきた。また、気もちマップの活用や言葉集めなど、語彙力を高め、書き表し方を工夫する活動もしている。朝の長坂タイムでは、週１回、全学年で日記指導にとりくんでおり、「日記チェックシート」や「作文ルーブリック」を活用しながら書く活動を進めている。ペアやグループでの対話を通して、互いの考えを共有し、表現力を高める活動をとり入れている。

（算数）

朝の長坂タイムでは、プリント学習やクロームブックを用いて、算数の基礎力定着のためのとりくみをしている。授業では、少人数指導やチームティーチングをとり入れ、個々の児童に合わせたきめ細やかな指導を行っている。特に、低学年では、繰り上がり・繰り下がりの計算・九九の定着に、高学年では、四則計算、分数や小数の計算の定着に力を入れている。また、文章問題を読み立式する力をつけるために、図や数直線を書いて考える習慣をつけ、自分でとり組もうとする力や課題把握力の育成に力を入れている。

全国学力・学習状況調査の結果より（C）

教科の結果より

国語の記述式の問題では無解答率が高く、与えられた条件のもとで文章を作成したり、様々な情報を整理して考えたりする力が弱いことが課題として挙げられる。また、長い文章や日常生活で馴染みのない話題が書かれている文を読む経験が不足している。

算数では、記述式の問題の無解答率が非常に高い点が課題として挙げられる。この原因として、文章問題やグラフから必要な情報を読みとることができていないため、問題を解く前につまずき、諦めて無解答になる可能性が考えられる。

児童質問より

「１日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」の質問に、半分以上の児童が「全くしない」と回答しており、普段から本や文章に親しんだり、活用したりする経験が乏しいことがわかる。

児童の８割は、「算数は大切で将来、社会で役に立つ」と回答している。しかし、学習内容が難しく、苦手だと感じる児童が半数以上いる。また、「諦めずにいろいろな方法を考えるか」という質問では、半数の児童が「できていない」と回答しており、これは算数の無解答率の高さにも繋がっている。

これからのとりくみ（A）

- 言葉との出会い方を工夫して語彙力をつけるとともに、図書の時間などを活用して読書を通した言語活動をとり入れる。
- 書く観点をしぼって作文にとりくみ、作文チェックシートを引き続き活用していく。
- 考えたことを発表したり、紹介したりする機会を設け、多様な表現の仕方に触れられるようにする。
- 自分の考えを自分の中でとどめておくのではなくて、アウトプットする時間を授業の中で増やしていく。自分の考えをもち、ペアやグループで発表する時間を多く設けることで、知識の定着を図る。
- 算数では、問題の意図をつかみ、必要な情報に着目する場面を設け、一人ひとりが思考する時間をしっかりととることや、問題解決型の授業をとりいれ、児童が主体的に学習に臨めるようにする。
- 学校生活や普段の生活で使う身近なものや具体物を使用して考えさせる。また、タブレットを活用して考える活動や情報を共有する活動を通じて、学習に主体性をもたせていく。